

親子の読書

「子どもたちにキリンを見せたい」と、北海道釧路市内の主婦らが中心となって展開した活動を追った「ぼくらの街にキリンがやってくる チャイルズエンジェル450日の軌跡」(ポプラ社)は、直木賞作家の志茂田景樹さん(73)が子どもに向けたノンフィクション作品だ。「子どもの夢をかなえるために奔走する大人の姿を伝えたかった」と話す。

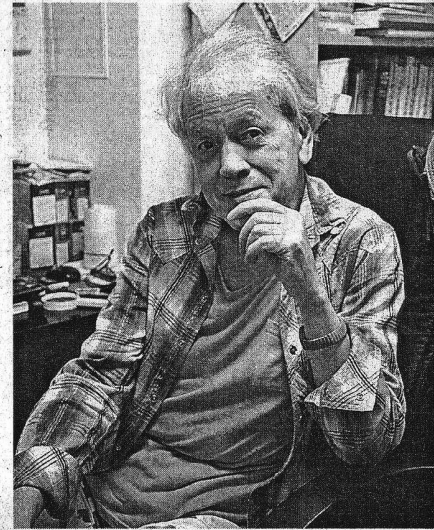
おはなしめぐり

動物園の花形といえ、ゾウとキリンです。釧路市動物園はかつてゾウもキリンもいたのですが、私が行った時はゾウ舎もキリン舎も空っぽでした。キリン舎にはアルパカが数頭いましたが、もの悲しく感じました。

「チャイルズエンジェル」は、70代以上の主婦が中心の団体です。孫世代の子どもたちにキリンを見せたいと、その一心で立ち上がった人たちです。釧路市は人口20万人に満たない地方都市ですが、そこを拠点にキリン購入に必要な5000万

「ぼくらの街にキリンがやってくる」 志茂田景樹さん(73)

しもだ・かげき 1940年、静岡県生まれ。中央大学法学部卒業。さまざまな職業を経て作家を目指し、40歳の時「黄色い牙」で直木賞受賞。絵本や児童書作品も多く、読み聞かせ活動も精力的に行っている。



子どもの切なさを描きました。この絵本のテーマは命です。動物園は見せ物のように展示しているのではなく、輝く命の素晴らしさや尊さを見せているのです。その輝きを子どもたちは切望しているのです。

円もの大金を募金で集め、チャイルズエンジェルをよつと、ムーブメントを通じて、子どもたちに自起こしました。彼女たちが分たちが持っている人生の熱意は釧路にとどまらず全道に広がり、東京にも飛びました。キリンのような大型動物を、女性と尊さを知ってほしいと主体的市民団体が募金活動をして寄贈したという事例を、私は聞いたことがありません。信念を持って活躍したを見せようと力を尽くします。

他者のために力尽くす尊さ

てくれた見ず知らずの人たちがいたことを、思い出しでもらいたいです。同じテーマで絵本「キリンがくる日」も作りました。動物園の看板スターがいけないというがっかりする気持ちは、裏返せると思っています。この世代はキリンを待ちわびる切がない思いになります。子

